

計画概要、コンセプト

計画概要

高田屋嘉兵衛公園道の駅施設整備等基本設計業務

敷地概要

- ・ 場所 兵庫県洲本市五色町都志 1087 番地先
- ・ 敷地面積 約 10.0ha（公園全体）
- ・ 用途地域 指定なし ※都市計画区域外
- ・ 防火地域 定めなし
- ・ 建蔽率 定めなし
- ・ 容積率 定めなし
- ・ 日影 なし ※都市計画区域外
- ・ 前面道路 東側道路：第二高田屋公園線 幅員約 6m
南側道路：高田屋公園線 幅員約 12m

建物概要

- ・ 用途 物販販売業を営む店舗・飲食店・
公衆便所、休憩
- ・ 構造規模 鉄骨造、一部鉄筋コンクリート造（独立基礎）、
地上 1 階建
- ・ 敷地面積 31,828.50 m²（計画建物の法的敷地）
- ・ 建築面積 約 2,000.00 m²（建蔽率定めなし）
- ・ 延床面積 約 1,300.00 m²（容積率定めなし）
- ・ 建物高さ 8.72m
- ・ 軒高さ 8.58m
- ・ 駐車場 第 1 駐車場 109 台
第 2 駐車場 105 台

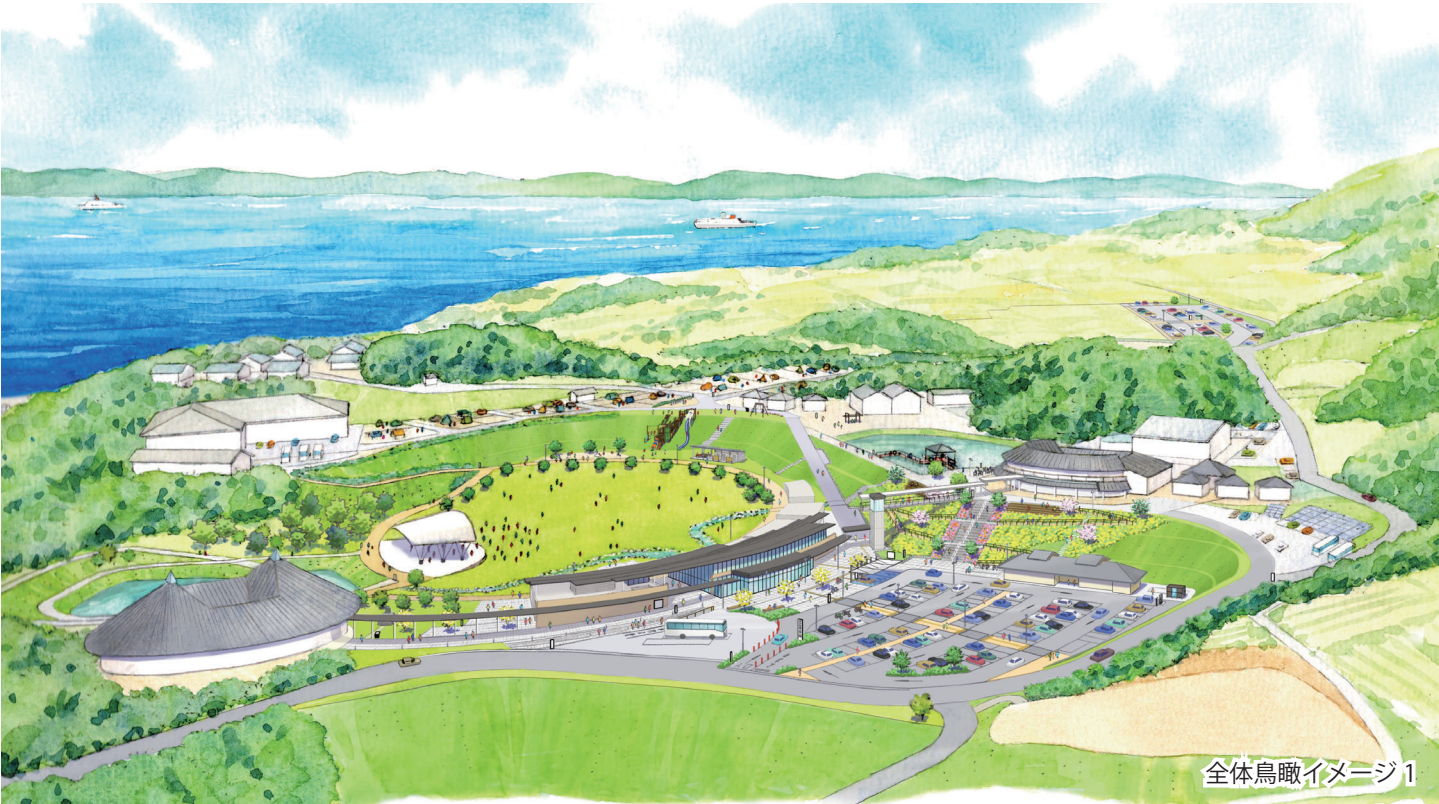
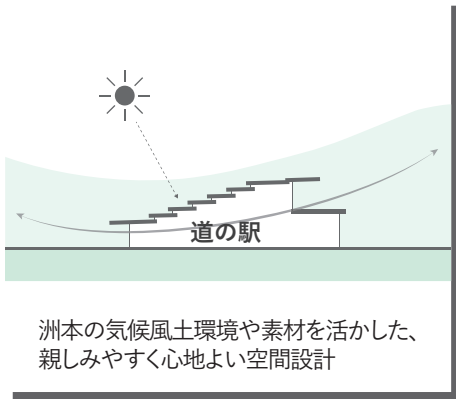
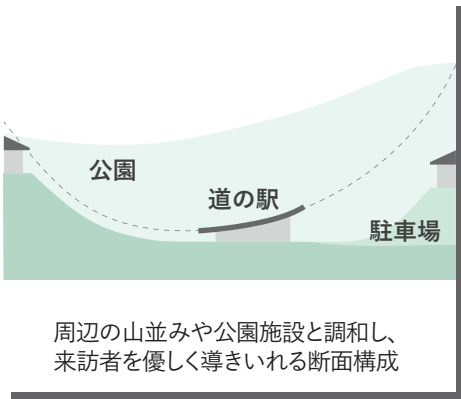
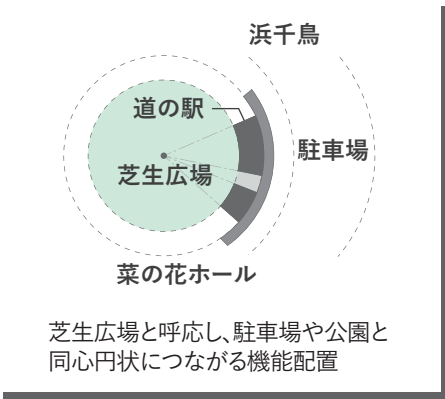
ひと・もの・ことをつなぐ「えんのえき」づくり

本計画地である高田屋嘉兵衛公園の中には、様々な体験を内包した場所が潜在している。本計画では、公園内の多様な体験へと導く道の結節点に駅をつくり、来訪者を道の駅から公園内の多様な体験へ導き、そして訪れた人々をまちの活動へと促し、公園とまちの魅力を顕在化する「始発駅」となることを目指す。こうした様々な体験と活動をつなぐことで、ひと・もの・こと、そして公園とまちをつなぐ道の駅を、本計画では「えんのえき」と名付け、3つの〈えん〉—沿・園・縁—をコンセプトとして公園を整備する。

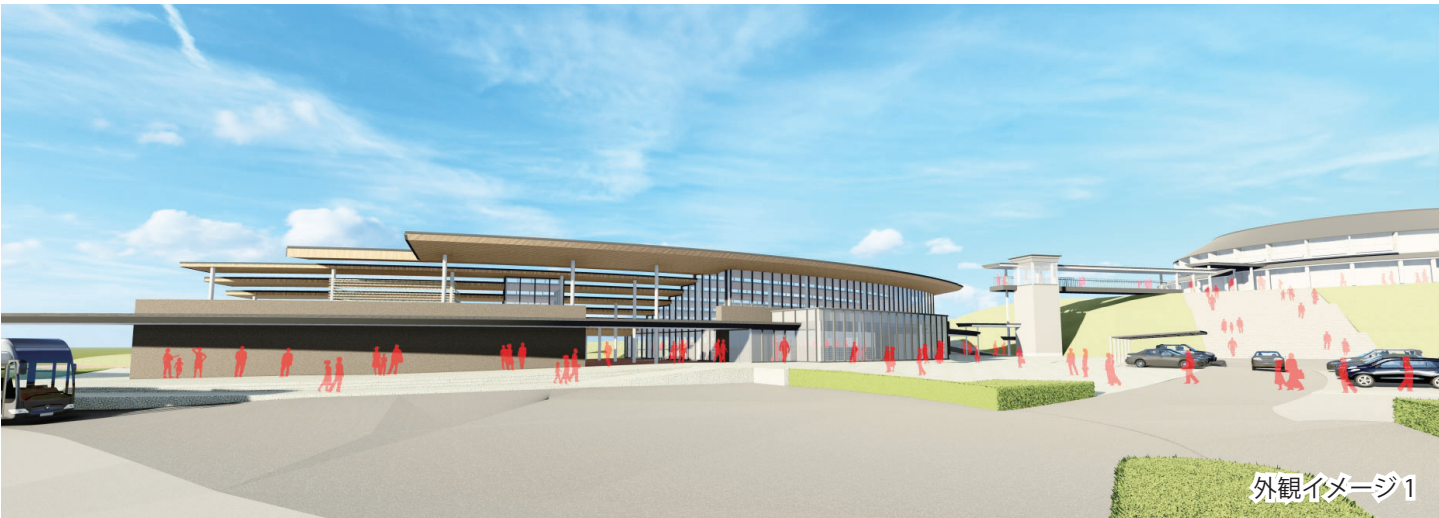
『沿』：公園の憩いの中心である芝生広場に沿って、
公園内の各要素をつなげる道の駅。

『園』：公園の玄関となる顔づくりを整備し、
公園全体へ来訪者を導く道の駅。

『縁』：誰もが気軽に集まり、
まちの縁を生む道の駅。



全体鳥瞰イメージ 1



外観イメージ 1



内観イメージ 1

※本資料は計画段階におけるイメージ図です。詳細については、今後変更となる可能性があります。本資料を使用する場合は、事前に市の承諾を得る必要があります。

洲本市

高田屋嘉兵衛公園道の駅施設整備等基本設計業務
基本設計 | 計画概要、コンセプト

概要 1

安井建築設計事務所・KKA & A・日本工営都市空間コンソーシアム

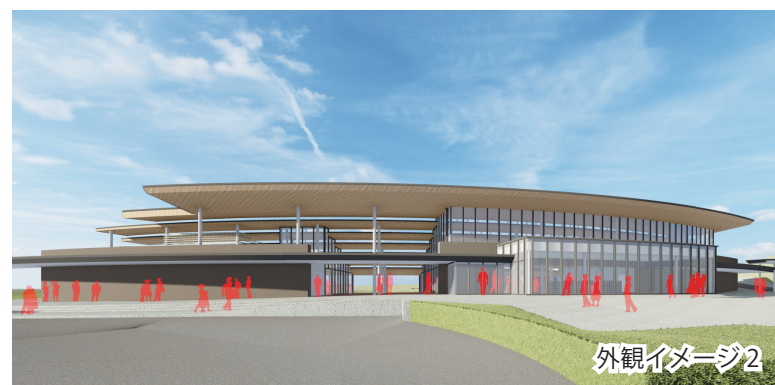
配置・動線計画

□配置計画

- ・駅舎は、既存施設および改修する第1駐車場の中心に配置することで、高田屋嘉兵衛公園の新たな玄関として機能することを目指す。
- ・EV 接続ブリッジは駅舎とは別棟とし、駐車場から来訪者が一目で分かる位置に、駅舎と浜千鳥の間に配置する。
- ・駐車場は、第1駐車場と第2駐車場に分けて配置する。第2駐車場は、通常は閉鎖しており、週末やイベント等の催事時に開放する。
- ・バスのロータリーを一般車の動線と分離して設け、分かりやすく明快な駐車を計画する。
- ・第1駐車場の配置は芝生広場や駅舎に沿って放射状に計画し、ランドスケープや駅舎と調和した形状とすることで、視覚的に駅舎への誘導を促すとともに、アプローチに高揚感をもたらす計画とする。
- ・景観に配慮し、設備置場を駅舎の北側に集約して配置する。

□動線アプローチ計画

- ・第1駐車場内にイベント広場を経由して駅舎や芝生広場へと延びる歩道を設け、来訪者にとって分かりやすく安全な歩行者分離動線を確保する。
- ・キャノピー及びEV 接続ブリッジにより、駅舎を起点として既存施設の菜の花ホールから浜千鳥まで、雨に濡れず行き来できる動線を確保し、来訪者の回遊性を高める。
- ・駐車場の車両動線は一方通行とし、入口と出口を別に設置して安全性に配慮した動線計画とする。



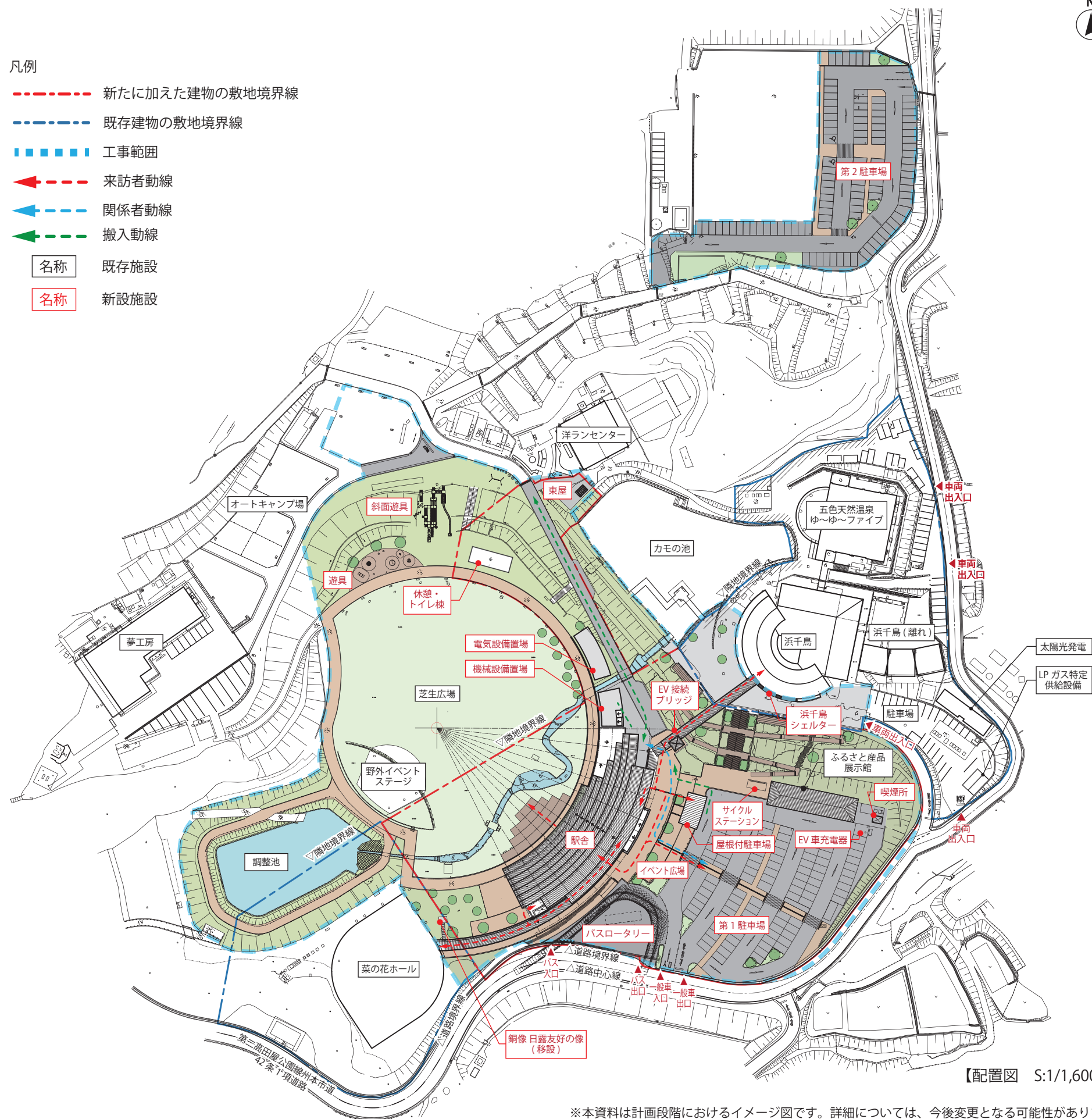
外観イメージ2



外観イメージ3

凡例

- 新たに加えた建物の敷地境界線
- 既存建物の敷地境界線
- 工事範囲
- 来訪者動線
- 関係者動線
- 搬入動線
- 名称 既存施設
- 名称 新設施設



【配置図 S:1/1,600】

※本資料は計画段階におけるイメージ図です。詳細については、今後変更となる可能性があります。
本資料を使用する場合は、事前に市の承諾を得る必要があります。

洲本市

高田屋嘉兵衛公園道の駅施設整備等基本設計業務
基本設計 | 配置・動線計画

概要 2

安井建築設計事務所・KKA&A・日本工営都市空間コンソーシアム

平面計画

□ゲート広場を中心とした安全で回遊性の高い平面計画

- 駅舎の中央に半屋外のゲート広場を配置し、来訪者を迎える開放的な空間とすることで、多様な利用や地域コミュニティの形成を促す。また、ゲート広場を起点とし、南側に一部 24 時間利用可能な休憩機能、北側に情報発信・地域連携・事務管理機能を配置することで、南北に広がる駅舎の主要機能をゲート広場と連携させ、空間の自由度が高い施設配置計画とする。

□来場者を迎え入れる分かりやすい顔づくり

- 情報発信機能や地域連携機能は駐車場側に配置し、来訪者からの視認性を高める。また、前面にイベント広場を設け、内部の賑わいが外部に溢れ出すような開放的な計画とする。
- 駐車場側からの視線を遮らない壁や開口部の配置により集客性を高めるとともに、駅舎内の賑わいを感じられる空間とし、芝生広場との一体感を生む新しい公園の玄関となる施設の顔づくりを行う。

□方位磁針に基づく柱スパンの設定

- かつて高田屋嘉兵衛が方位磁針を頼りに各地を巡り、人と物の循環を生み出したように、駅舎でも柱スパンを磁針基準と同じ 6 度として設え、物販スペースや通行幅を確保する。来訪者はこの柱スパンの中を行き来することで、物販や軽飲食、既存施設への巡回を通じ、嘉兵衛がつなげた人と物の循環を体感できる計画とする。

□芝生広場とつながる居心地の良い一体感づくり

- 芝生広場に面した落ち着いたエリアには、軽飲食施設や休憩スペースを配置し、居心地の良い憩いの場を創出する。

□来訪者、関係者ともに利用しやすい明快なゾーニング

- 24 時間利用可能エリア（トイレ）と営業時間制限エリアを明確に分けることで、運営効率と管理のしやすさを両立させたゾーニングとする。
- 事務管理機能は搬出入の利便性を確保しつつ、地域連携機能に隣接させ、来訪者の視界に入りにくい位置に配置することで、景観に配慮した計画とする。

□情報発信機能として機能する五色ウォール

- バス停の前面に計画している五色ウォールに掲示板等を設置することで地域や公園内の情報を発信する計画としている。

□安全な搬入計画

- 搬入車両は 2t トラック程度の回転軌跡を考慮し、十分な車両幅員を確保する。
- 事務・管理機能北側に、搬入車両 5 台分の停車スペースを確保する。

□建物内の高低差を考慮した歩行しやすい空間づくり

- 敷地の現況地盤レベルには約 3m の高低差があるが、段差を設けずスロープ等で緩やかに高低差を調整することで、誰もが移動しやすいバリアフリーな計画とする。

□経済性に配慮した平面形状

- 駅舎は、柱スパンごとの多角形とし、公園の中心である円形の芝生広場と調和する形状とする。また、限られた不整形敷地を最大限に活用しつつ、経済性へ配慮した計画とする。

□オープンな厨房による賑わい創出と回遊性向上

- 物販と飲食スペースの中心部にオープンな厨房を計画することで、空間のにぎわいを創出するとともに、回遊性を高めて物販との相乗効果を生む計画とする。

□レジと総合窓口の兼用による効率性の向上

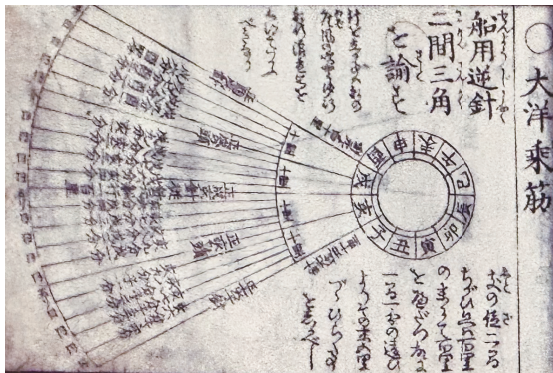
- レジと総合窓口を兼用することで、それぞれに専用カウンターを設ける必要がなく、限られたスペースを有効活用できるとともに、運営効率の向上にも寄与する。

□バス停に近いバス運転手用の休憩室

- バス停に近接してバス運転手用の休憩室を配置することで、バス運転手が待機・休憩の利便性を高める計画とする。



【1 階平面図 S:1/500】



【6 度を基準とする高田屋嘉兵衛が用いた方位磁針】

凡例

- 来訪者動線
- 関係者動線
- 搬入動線

- 休憩機能（トイレ、ベビーコーナー、授乳室、パウダースペース）
- 休憩機能（休憩スペース）
- 休憩機能（多目的）
- 情報発信機能
- 地域連携機能（直売施設）
- 地域連携機能（軽飲食施設）
- 事務・管理機能

※本資料は計画段階におけるイメージ図です。詳細については、今後変更となる可能性があります。本資料を使用する場合は、事前に市の承諾を得る必要があります。

洲本市

高田屋嘉兵衛公園道の駅施設整備等基本設計業務
基本設計 | 平面計画

概要 3

安井建築設計事務所・KKA & A・日本工営都市空間コンソーシアム